

I 若手の先生に聞きました！

東京都の公立学校で活躍している先生方に、教職の魅力や、やりがい、仕事の実際などをインタビューしました。

高島 舞 先生 新宿区立富久小学校 教諭

PROFILE

岐阜県出身。非常勤講師として1年間勤務した後、現在の小学校で教員3年目。現在、2年生の学級担任である。現任校の自慢は「挨拶が上手なこと」。目指す教師像は、「良いことも悪いことも全て受け止めてくれた大学の恩師」。



Q どうして教員になろうと思ったのですか？

A 大学の恩師のすすめです。教育実習での良い思い出も後押ししました。

Q 教員として、やりがいのある場面はどんなことですか？

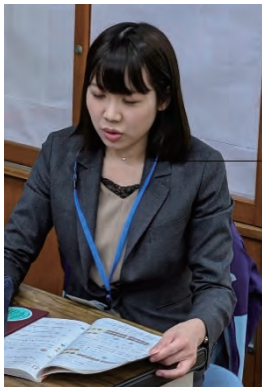
A 児童と「先生できたよ。」「楽しいよ。」「学校好きだよ。」などのやりとりができると、本当にうれしいです。

Q 教員になってみて、憧れとのギャップはありましたか？

A 教育実習では、授業を行う1クラスの児童との触れ合いが全てでした。でも、教師になると、全校の児童との関わりがあります。また、年間を通した授業準備や行事運営、そのための校務分掌などもあります。仕事が多岐にわたるので、はじめは、仕事の見通しがもてませんでした。

Q ギャップをどのように乗り越えましたか？

A 先輩教員の誰に、何を、どこまで質問すればよいのか、分からず戸惑いました。まず過去の資料を確認した上で、自分の考えをもち、勇気をもって先輩教員に聞くようにしました。今では、迷ったら聞くようにしています。



Q 先輩教員からのアドバイスで心に残っていることは？

A 「迷ったらやる」。やらないで後悔しないということ。また、児童の目線をもつだけでなく、「保護者の目線で考える」ということ。広い視点で教育に当たることを教えていただきました。

Q 教員を目指す皆さんに、伝えたいことは？

A 教員は、人と接する職業です。学生のうちに、様々な人と接する機会をもち、経験を増やすことが大事だと思います。自分はアルバイトなどをたくさん経験しました。ボランティアで子供たちと接する機会をもつことも、教師になった際に役立ったと考えています。



PROFILE

東京都出身。国語科の教員として3年目。教員という仕事に憧れをもったのは、高校生のとき。恩師の国語の授業やホームルームの時間が大好きだった。

仕事では、力を入れるべきところ、程よく抜くところを作り、余裕をもって対応できるようにすることをモットーにしている。

Q 中学生は難しい年頃とよく言われますが、どのように接していますか？

A 教員にとっては、生徒との関係が全てだと考えています。ただ、人間ですから互いに全ての人とうまく合わせることはできないとも思います。生徒との関係で悩んだときは、複数の教員に相談するようにしています。

様々なことがあっても、生徒の成長を感じ取ることができたとき、やりがいを感じます。

Q 先輩教員とはどのようにコミュニケーションをとっていますか？

A 職場の雰囲気良く、相談しやすい環境ではあったものの、最初は先輩教員に相談しづらいと感じました。しかし、自分が同じような失敗を繰り返すことは、生徒に影響するのだと実感する出来事があったからは、先輩教員に相談することができるようになりました。

ちょっと気になるといった小さなことでも、職員室での会話の中で相談するようにしています。

Q 部活動の指導について教えてください。

A 卓球部の顧問をしています。ガイドラインに基づいた部活動運営を心掛けていますが、勝利にこだわる生徒と楽しみたい生徒への対応のバランスが難しいと感じています。生徒一人一人への声掛けやチーム作りなどを工夫しています。

Q 保護者への対応で心掛けていることはありますか？

A 保護者にとっては、自分の子供が一番大切。保護者には共感をもって対応するとともに、生徒との関係を良くすることを心掛けています。



Q 教員を目指す学生の皆さんに伝えたいことは？

A 学生時代は、様々な経験を積むことを勧めたいです。自分の場合は、数種類のアルバイトを経験したことで、人との接し方、仕事の仕方（先を見通して準備する方法や先輩への相談など）を学んだと思っています。何より、学校以外の世界を知るの大切なことです。学べる機会を大切にしたいと思います。

PROFILE

千葉県出身。国語科の教員として2年目を迎えた。

目指す教師像は、「全ての子供たちに公平、公正でありながら、一人一人の個性や状況に寄り添うことのできる、人間的な魅力の深い教師」。自分の専門性を高めるため、読書や研修等への参加にも努めている。



Q 教員を目指した動機は何ですか？

A 人と関わることや学校が好きな子供でした。よい先生に恵まれ続けたことで、将来なりたい職業の一つには、常に「教員」がありました。大学では「源氏物語」を研究しました。子供たちに、国語という教科を深く知ってもらいたいという思いがあり、高等学校の国語科教員を目指しました。

Q 教科指導で難しさを感じたことはありますか？

A 教科の魅力を伝えるために、重点的に知識や文法等を教えたいと考えていました。しかしその方法は、生徒たちの興味や関心、実態には合っていませんでした。

Q 教科指導の難しさを乗り越える工夫は？

A 生徒の実態に合わせて、多様な視点から教科の魅力にアプローチできるように工夫をしました。例えば古典では、現代とのギャップについての面白さや、身近にも古典と関係するものがあることを発見させる学習活動に取り組んでいます。このような学びが、時代を超えた「知」に触れることにつながると考えています。

Q 教員になって心に残っていることは何ですか？

A 合唱コンクールです。生徒たちと一緒に練習に取り組みました。生徒たちは、各自の悩みや仲間同士の衝突を乗り越えながら、クラスで一曲をつくり上げました。その成長の過程や発表での歌声、入賞したときの笑顔が、印象深いです。

Q リフレッシュの方法は？

A 中学校から大学まで吹奏楽部で、現在も吹奏楽団でサクスを吹いています。今までの人生において、音楽は大切な時間ですし、様々な職種の人と交流することも楽しいです。家に帰れば出迎えてくれる猫の存在も大きいです。

Q 東京都の学校で働くことのメリットは？

A 東京で働くことの大きな魅力の一つは、人との出会いだと思います。東京の豊富な種類の学科や課程の学校においては、様々な生徒に出会うことができます。また、職場においては、経験豊富な先輩教員から学ぶことも多いです。





PROFILE

山形県出身。中学校で非常勤講師として6年間勤務した後、現在の学校で4年目。学校の自慢は「子供を一番に考えた教育活動を実施している」こと。仕事と私生活の分け方については（性格的に引きずらないタイプではあるが）、トレーニングをしてリフレッシュしている。

Q 特別支援学校の教員を目指した理由は何ですか？

A 大学を卒業して6年間、特別支援学級補助員として勤務していました。そこで特別支援教育について学ぶ機会を得たことから、この道で働きたいと思い、目指しました。

Q 教員として仕事のやりがいを感じることは何ですか？

A 表現豊かな生徒たちが、「できた！」と表情を変化させた瞬間です。生徒が成長する姿に感動します。

Q 実際に教員として勤めてみてイメージが違ったことはありますか？

A 学生時代は、教員の仕事として、授業、部活動、保護者対応をイメージしていたのですが、実際は分掌業務や事務作業があり、イメージと違うなと感じました。特に、成績処理などの文書作成には苦労しました。

Q どのようにして、慣れない仕事を乗り越えてこられたのですか？

A 先輩教員に相談したり、先輩が作成した資料や教材等を参考にして自分なりに工夫を加えたりしました。

Q 先輩のアドバイスで、特に心に残っているのはどんなことですか？

A 「まずは、どーんとやってみる！フォローは任せろ。」
先輩方のこの言葉で、臆せず授業に臨むことができました。



Q 自己啓発の方法を教えてください。

A 3年目までは、授業後に短時間でも先輩方からフィードバックを受けるよう心掛けました。また、外部専門員に授業観察・助言をお願いしています。さらに、HP等で研修・研究のリーサーをするなど、常に教育の情報をチェックしています。

Q 東京で教員をすることのメリットは？

A 東京の教員の中には、他の道府県出身者や企業経験者も多いです。様々な方々から刺激を受け、勉強することができます。